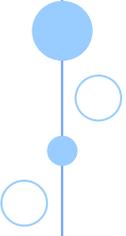
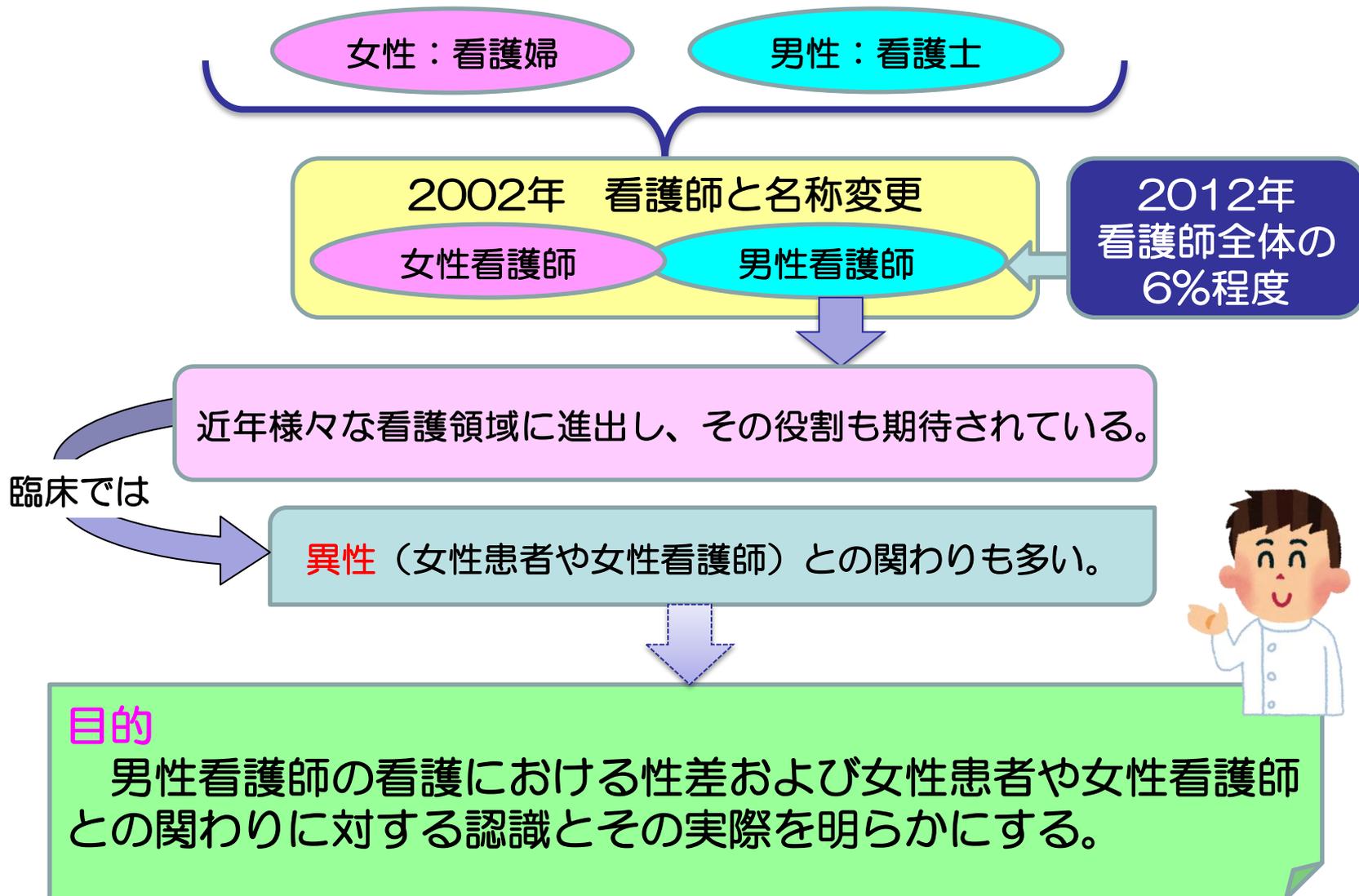




看護における性差および女性患者・女性看護師との
関わりに関する男性看護師の認識と実際



目的



方法

対象

全国の150床以上の病院で、複数（2診療科以上）の診療科を有する1,150施設の内、本研究に協力の得られた544施設に勤務する男性看護師（准看護師を含む）8,539名。

調査方法

平成24年12月～平成25年4月に無記名の選択式一部記述式の自記式質問紙調査を実施し回収は、回答者本人による郵送法とした。

分析方法

各項目（選択式回答）の無回答を除き、記述統計を行った。また、自由記述については、内容の類似性により分類した。

倫理的配慮

研究代表者が所属する施設の倫理審査会の承認を得て実施した。

結果

回答者の背景

回答者

3,713名（回収率43.5%）

回答者の年齢と経験年数

平均年齢 33.2±7.8歳

平均臨床看護経験年数

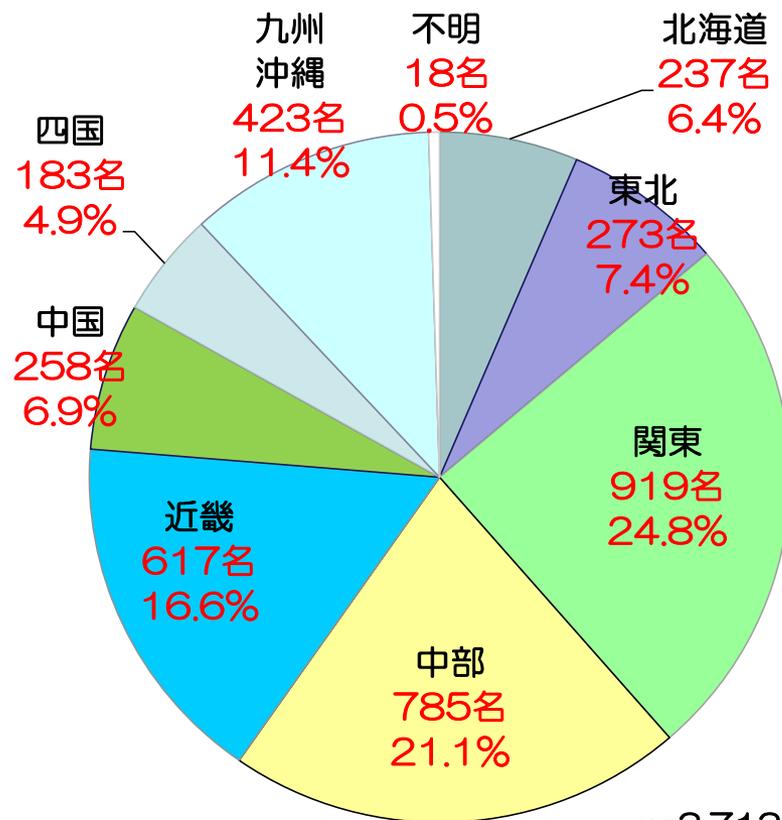
9.54±7.4年目

配属先

最多、内科系病棟543名(14.6%)

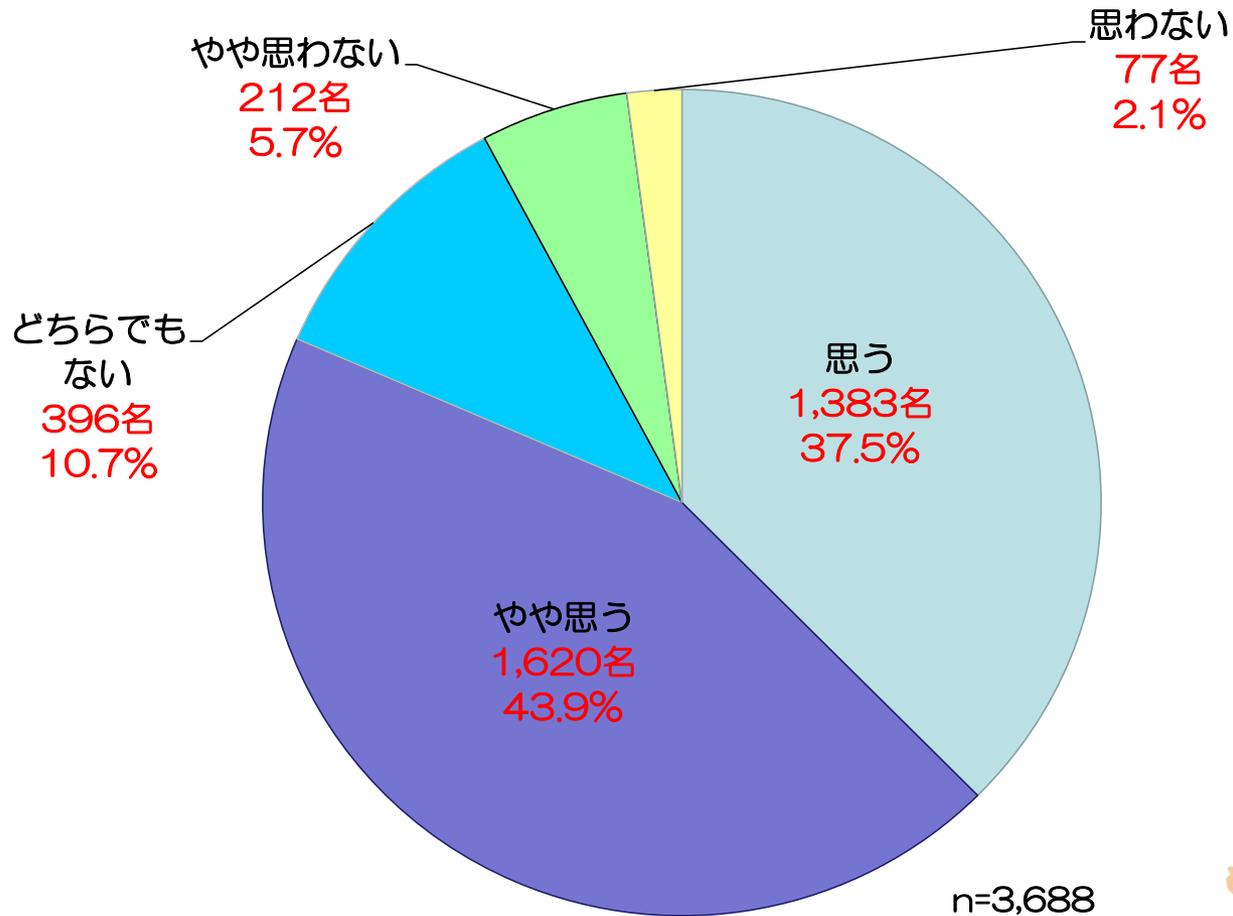
次いで、混合病棟542名(14.6%)

回答者の勤務施設の所在地



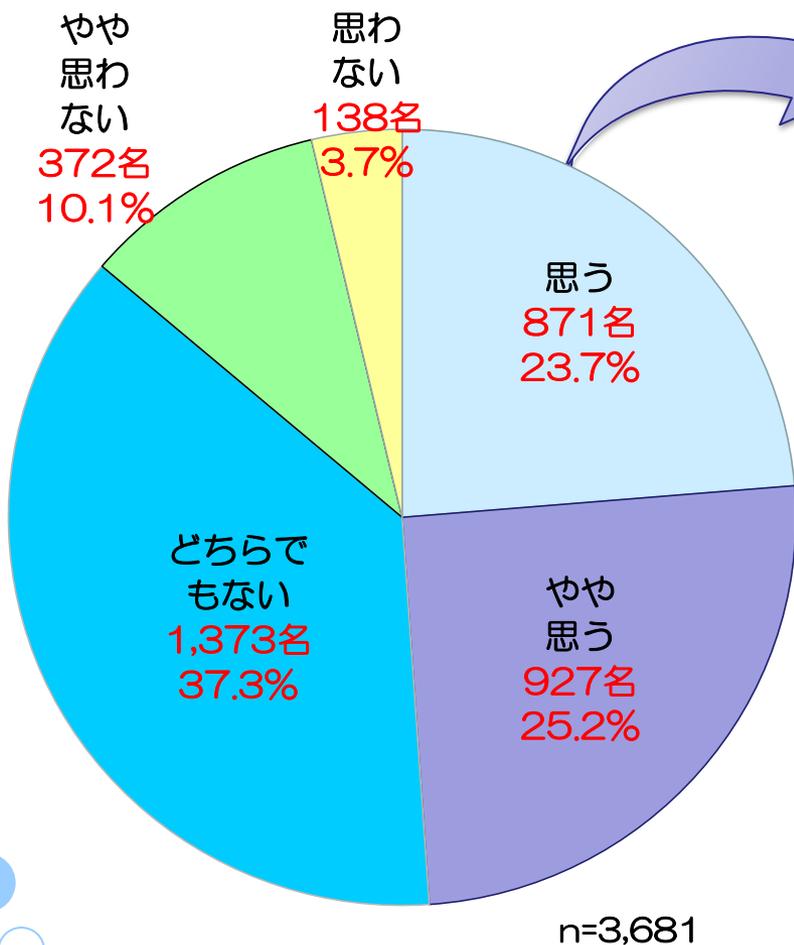
結果

看護への看護師の性差の影響（性差が看護に影響するか？）



結果

患者や家族への看護における男性看護師特有の役割



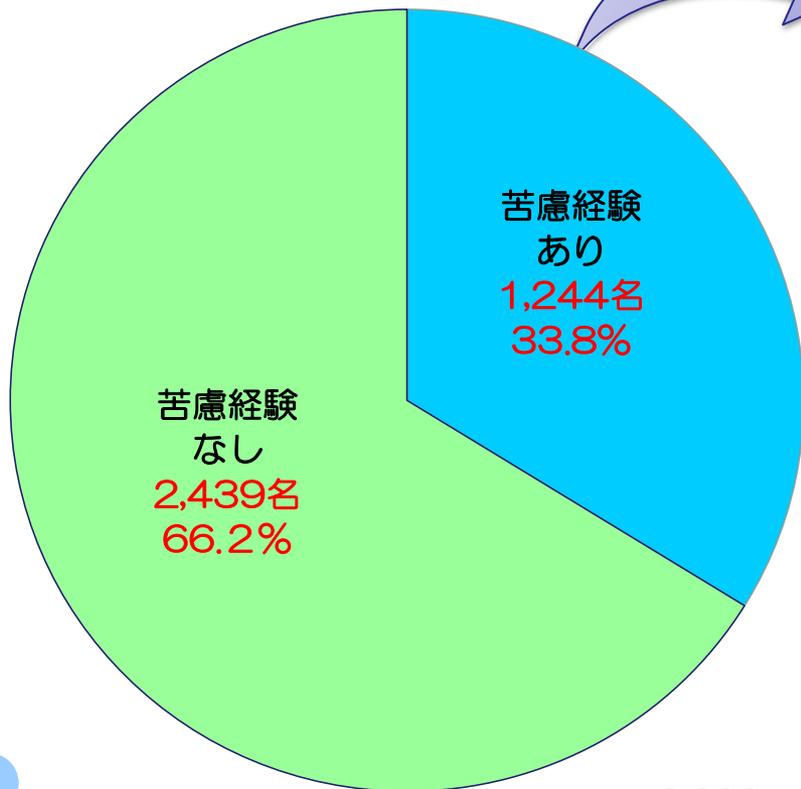
男性看護師の意見 一部抜粋

思う・やや思う

- 患者の不穏時や興奮時の抑制
- 小児領域での父親的存在
- 移動や移乗などの腕力が必要な場面
- 男性患者の羞恥心を伴うケア（陰部洗浄、導尿など）
- ME機器の取り扱い など

結果

女性患者の羞恥心を伴う看護以外で男性看護師であるために患者や家族への看護において苦慮した経験



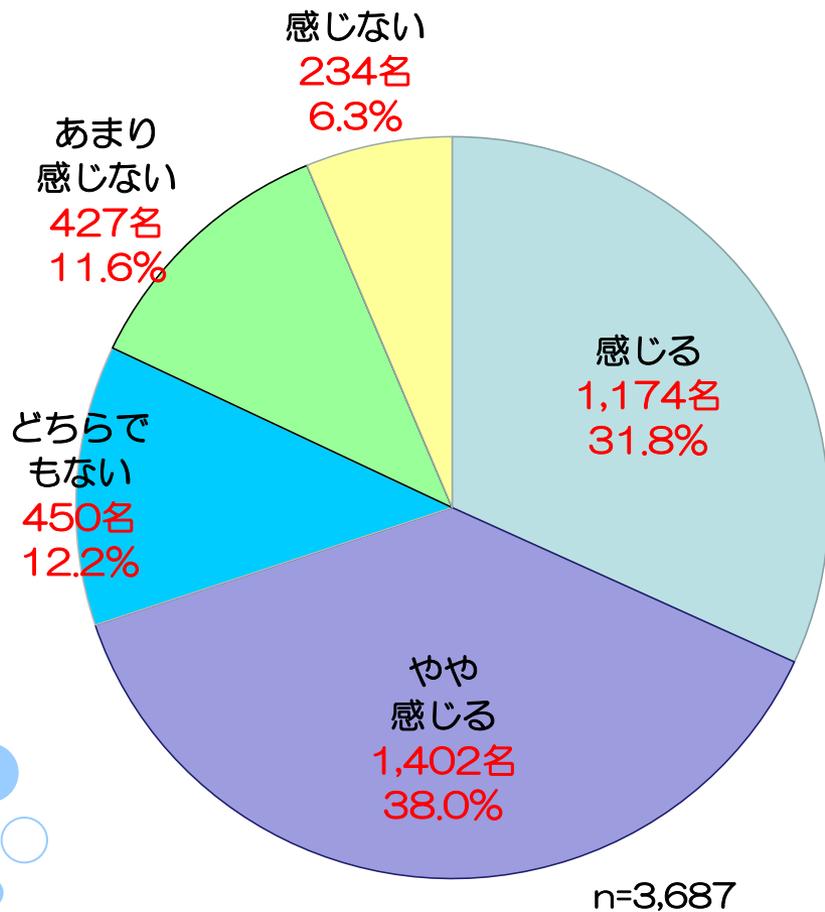
男性看護師の意見 一部抜粋

- 若い女性患者の身体に関する問診
- 女性看護師を好む患者さんへの対応
- 男性看護師を嫌う患者さんへの対応
- 男性が看護職に就いていることに偏見をもつ患者さんへの対応 など

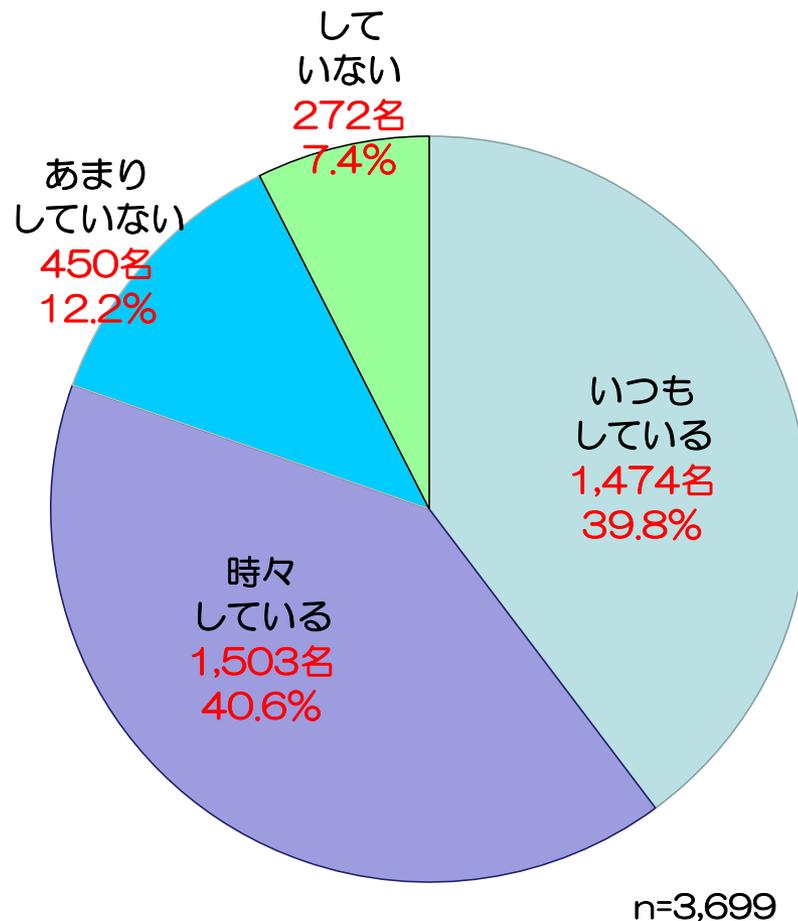
結果

女性患者の羞恥心を伴う看護

女性患者の羞恥心を伴う看護を実施する際のためらい



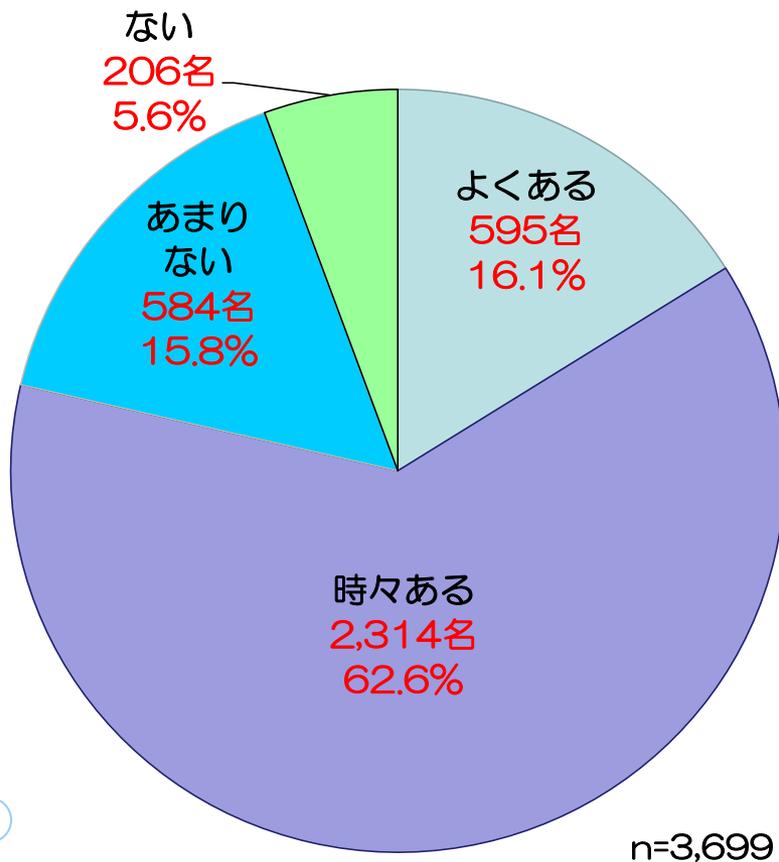
女性患者の羞恥心を伴う看護を実施する際の事前確認



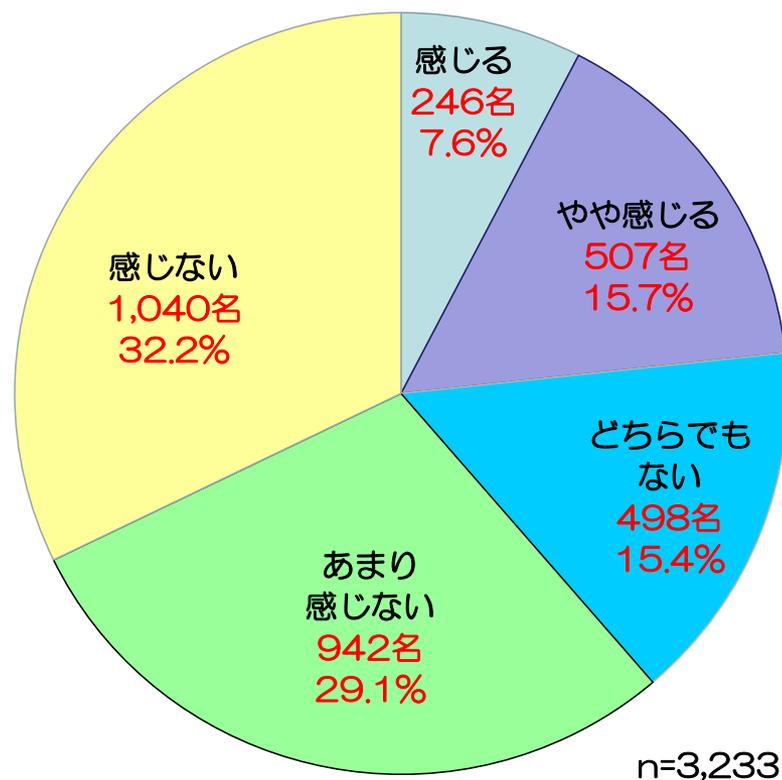
結果

女性患者の羞恥心を伴う看護

女性患者の羞恥心を伴う看護を実施する際の拒否経験

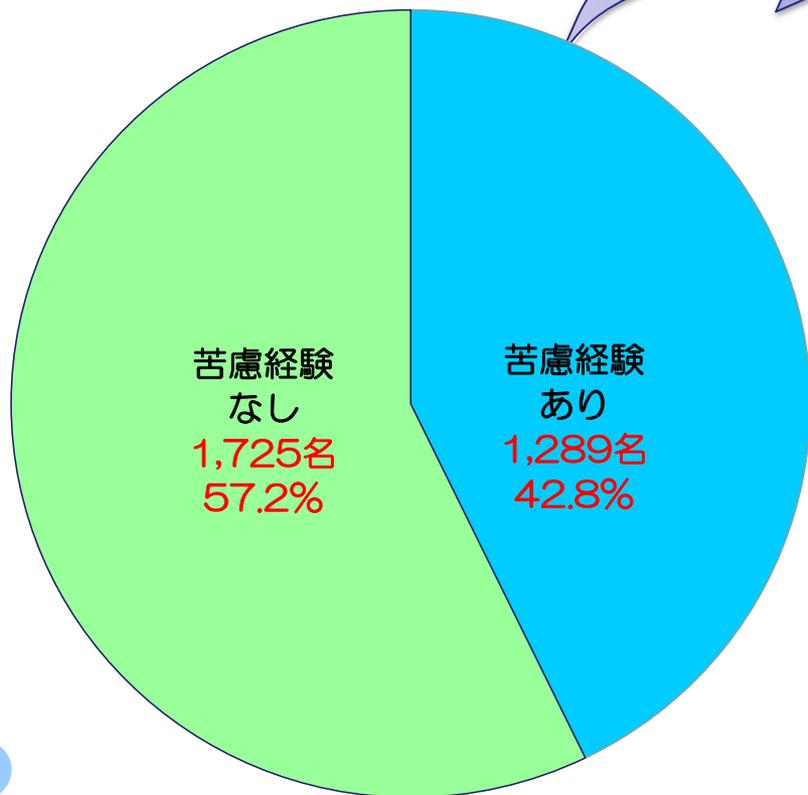


女性患者の羞恥心を伴う看護を拒否された際の無力感



結果

女性看護師と仕事上の関係づくりにおける苦慮経験



n=3,013

男性看護師の意見 一部抜粋

- 女性の話題に入れない
- 女性と男性の考え方の違いから意見が合わない
- 根拠もなく「男だから」と言われる
- 休憩中に居場所がない
- 仕事を頼みにくい
- 指導がセクハラととられないか気を遣う
- 私生活のことを聞かれる など

まとめ

